

学校教育活動支援ボランティア

学科・専攻

関西女子短期大学 養護保健学科

担当教員

青木 靖

連携先

関西女子短期大学 養護保健学科

プログラム内容

地域の学校では、多様な支援を必要とする子どもが増加しており、学校の教職員だけでは十分な支援を行うことができない状況があり、教育委員会や各学校から、学校教育活動ボランティアを求める声が多い。地域の学校教育を支援するとともに、地域の児童生徒に、より充実した教育活動を提供することを目的とする。

成果・考察

養護教諭を目指す学生にとって、学校教育活動支援ボランティア活動の参加により、机上の学修だけでは得られない学びを得ることが多い。本年度の学生は、継続的な小学校でのボランティア、長期休業中の小学校でのボランティア・地域での学習支援ボランティア、学童保育でのボランティア、養護実習後の実習校でのボランティア等に参加・体験した。教育現場でのボランティアに参加・体験することで、養護教諭としての資質や能力を高めることができた。その他、ボランティアとして教室等に入り、子どもへの様々な支援を経験をしたことで、教育現場の状況を知り、子どもに対する見方・捉え方を広げることができた。

教員採用試験において、教育現場等でのボランティア経験について尋ねる教育委員会が増えている。また、継続的な学校教育活動支援ボランティアを加点対象としているところもある。学ぶところが大きい学校教育活動支援ボランティアなので、これまで同様に、ボランティアを募集している学校の情報提供を行い、継続的に参加できるよう促していく必要がある。

関西女子短期大学

養護保健学科 青木 靖 教授

学校にとってボランティア活動の学生の存在は、子どもに関わる大人が増えることになり、一人一人の子どもをきめ細かく支援することができる一助となっている。子どもにとっては、学校の先生とは違う大人で、年齢の近い学生と関わることで、自分のことを多角的・多面的に理解してもらえたと感じ、安心感が増す。学生にとっては、子どもの学校生活全般を広く知ること、講義での学びを深めるために有意義な時間となっている。

残念ながら、ボランティアに関心はあるものの、短大での課題を進める時間に追われる等で活動先を見つけ参加することができなかった学生もいた。

なお、ボランティアについては、キャリア教育の一環として、自らを振り返る一場面として位置付けている。

関西女子短期大学 養護保健学科

在学生インタビュー

・実習校にて引き続きボランティアをさせていただいた。実習での関わりとは異なり、授業の中で困っている子のサポートを行い、保健室とは異なる子どもの様子が見られた。保健室に来る時とは違い、友人と楽しく話している様子等を見ると、子どもたちの2つの顔を実感した。
・養護実習後の夏休みに学童保育所でボランティアをした。学童は学校現場とは違う子どもの顔があることを知り実際に見る事ができた。また集団生活の中で一人一人の思いを把握して対応する支援員の方の大変さを感じとれた。養護教諭という立場に立って子どもの理解や対応を考えながら体験できた。子どもの発言や行動に現れる思いを受けとめ、この学びを今後の自分に活かしていきたい。